

# 広島AIプロセスから学ぶ 実践的AIガバナンス

## — 信頼されるAIのために、いま始める「透明性の文化」 —

AIの社会的活用が進むなか、リスク管理・説明責任・透明性の確保は国際的な課題となっています。

いま企業や組織に求められているのは、技術をどう使うかだけでなく、「どう責任をもって使い続けるか」を示すことです。

本ハンドブックは、広島AIプロセス(HAIP)の枠組みを通じ、AIガバナンスを実践的に進めるための手引きとして作成されました。

完璧さよりも「現状を正直に示し、改善を重ねること」を重視し、AIガバナンスを組織文化として根づかせることを目的としています。

前半の「概要編」ではAIガバナンスの意義とHAIPの全体像を、後半の「実践編」では報告準備から提出までの具体的なプロセスを紹介します。

付属のワークシートは、自社の資料を整理しながら記入できる設計で、初めての組織でも取り組みやすい内容です。

### ハンドブック

AIガバナンスに関する透明性レポート  
ハンドブック (第1版)

### ワークシート



DLはこちら



## AIガバナンス 7つのフェーズ



## HAIPとは？

広島AIプロセス(Hiroshima AI Process: HAIP)は、AIの開発と利用における透明性と説明責任を高めるために、G7広島サミットを契機としてOECDが主導する国際的なガバナンス枠組みです。

AIの開発者・提供者が、自らの取り組みを報告・共有し、国や制度の違いを超えて学び合う「協調と信頼のプラットフォーム」として設計されています。

## 企業にとってのメリット

### 国際的な信頼・調達・投資への効果

AIガバナンス情報の公開により、調達・投資判断での信頼性が高まり、ESG評価にも寄与。

### 中小企業・スタートアップへの実務的效果

法的拘束がなく監査も不要。中小企業でも最小限の準備で国際的枠組みに参加できる。

### 社内ガバナンスとリスク管理の強化

方針と責任を明確化し、リスク管理と倫理文化の定着を促す。

### 採用・顧客・社会的信頼への波及効果

誠実なAI活用姿勢が採用・顧客信頼の向上につながり、企業価値を高める。

### 日本における整合性と実務的意義

AI推進法と整合し、国内外双方での信頼と実効性を確保できる。

## 取り組み企業の声

日本マイクロソフト株式会社

「責任あるAIの国際規範づくりに参画し、透明性と連携を推進しています。」

NTT株式会社

「AIリスクを協調領域として共有し、国際的な信頼形成を進めています。」

KDDI株式会社

「HAIPを通じて透明性と説明責任を実務に実装し、信頼を強化しています。」

ソフトバンク株式会社

「倫理的AI活用を社内に浸透させ、責任ある企業として信頼を高めています。」

株式会社Preferred Networks(PFN)

「HAIPで透明性と社内整備を両立し、開発者視点の信頼構築を進めています。」